## 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300667						
法人名	株式会社 悠隆						
事業所名	グループホーム「さくらの村	ŧ」.	ユニット名	B棟			
所在地	宮崎県延岡市夏田町345-1						
自己評価作成日	平成28年6月10日	評価結果市	町村受理日	平成28年8月29日			

## ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会				
所在地	宮崎市原町2番22-	号宮崎県総合福祉センター本館3階			
訪問調査日	平成28年7月22日				

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<b>V</b> .	サービスの成果に関する項目(アウトカム項	目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己	点検	したうえで、成果について自己評価します		
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該≒	取り組みの成果 当するものに〇印
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と   2. 家族の2/3くらいと   3. 家族の1/3くらいと   4. ほとんどできていない
	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 〇 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔				_	

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

	外		自己評価	 B棟	外部評価	<del></del>
自己	部	項 目			実践状況	ш 次のステップに向けて期待したい内容
		■ こ基づく運営	大	<b>这1人</b> 儿	关战认从	次の人)ツノに向けて期付したい内谷
		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	ローガン「咲かせように、お互いに気付い	作り上げた理念のス 6、笑顔の花を」のもと たことを教えあいなが もった言葉遣いや態度		
2		流している	が恒例となり12年続 にして大勢の人が来	は地元住民を招くこと いている。住民は楽しみ てくれるようになった。 のもとに避難訓練を毎		
3		大の柱所で支援の万仏と、地域の八々に同けて	食风舑座で   凹刑惟	さんで、毎年実施し認		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	た。「活動状況報告記 真アルバム」を報告し 区長さんから避難訓	催し6月で第60回となっ 書」、「日々の暮らし一写 している。構成員である 練の日程について地元 い日を教えていただき、 )参加が実現した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	告書で報告している。 いことがあれば随時  に教えてくれる。また	進会議」で活動状況報。制度変更などで判らな相談している。市は親切:介護保険課には職員をを依頼し講師を担当し		
6			体拘束と虐待の防止 東をしないケアの重! 関は、安全確保のた 施錠しているけれど が見られたらすぐに	象のホーム内研修で「身 :」講義を受け、身体拘 要性を理解している。玄 め家族の了解のもとに も、入居者に出たい様子 開錠し職員が付き添い、 一緒につき添っている。		

自	外		自己評価	B棟	外部評価	西
自己	外部	項目	実	践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	止するために職員相 特に夜間帯は2人に	皇待につながることを防 目互に注意し合っている。 こなるので対応困難な場 が駆けつけるようにして いる。(継続)		
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	いる。現在、日常生	で制度の理解を深めて E活支援事業対象者は		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている		た後質問を受け、同意 る。苦情はこれまで発		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	ている。家族懇談会 て家族のみで意見	と運営推進会議を設け さでは職員が席を外し 要望を出してもらってい 系の要望が1件あり、実		
11	, ,	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	いる。資格試験を受	合、一時金)を継続して 受験したいという前向き な取得に向けてバック 務交代)。		
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている		プにともなう処遇制度 る気を引き出している。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員を対象に研修 常勤職員全員が宮 福祉研修を受講し	招き年4回から5回全 を実施している。さらに ・崎市で行われる社会 た。職員は計画的に社 きるようにしている。		

自	外	暗泉延岡市 クルーノホーム  さくらの柱  (E 	自己評価B棟		外部評価		
Ξ	部	項目		践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		「る延岡市内のグルー 行き、食事作りにおいて			
Ⅱ.5	と心な	と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	設関係者から話を いる。出来るだけ本	かがい本人、家族、施 聞いて状況を把握して 、人にさくらの杜を見て .で入居していただくよう 続)			
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	握している。家族に てもらい、家族のこ	i院にうかがい状況を把こは必ずさくらの杜を見れまでの御苦労や思い受け止めるようにしてい			
17		の時」まず必要としている支援を見極め、他の	に作成し、適正なりるように努めている 外出すると行方不らがあった人も穏やか 居に不安を持ってし	当日より実施できるよう アアサービスが受けられ ら。その結果、自宅では 明になったり、入浴拒否 かに生活されている。入 いた家族が入居2日に れしいです」と言ってくれ			
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	われて職員は笑顔	う笑顔がいいね」とい での大切さに気付いた 言いながら肩を揉んで まされている。			
19			することはもちろん 参加してくれるよう 族の中には月に1년 ボランティアでやっ	れば逐一家族に報告 、行事には出来るだけ お願いしている。また家 回「笑いヨガ」の講師を てくれていて入居者に い活動になっている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	勤めた工場の花見 ぶりに故郷の延岡	だった道の駅や、長年 にお連れした。また6年 に帰って入居した方に、 わり立ち替わり訪れ			

自	外	一	自己評価	B棟	外部評価	西
E	部	項 目		践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	教えてやったり、散わそわしている様子かと職員を呼んでくはすぐ対応すると同	新しく入った方に場所を 歩につきあったり、そ 子を見てトイレではない (れることがある。職員 司時に、その入居者に がとうと言葉で感謝の		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	アサマリーを必ず受しい施設に移られた食べないとの連絡は破れまんじゅう、蒸持って伺った。その食欲が回復した。そん	はに移られた方には、ケ 受入先に渡している。新 と方が食欲が無く何も あった。職員が好物の しパン、バナナなどを ら結果それをきっかけに 家族は涙を受けべて喜		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	<b>\</b>			
	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	何げないつぶやき·	の中で、思いや願望を や表情から読み取り、 さかに実行している。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントについん家族からも情報を	ては本人からはもちろ を得ている。(継続)		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている		ーンを尊重しながら、日 oずかな変化を見逃さな (継続)		
	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ングーアセスメント している。実施に際 見や要望をお聞き アイディアを取り入	コンファレンスーモニタリの一連のフローで実施 の一連のフローで実施 としては本人、家族の意 し、それに介護職員の れて作成している。お 直し変化に対応してい		
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	入し、日々のケアに 職員の気付きがあ	プランの短期目標を記 生かすと共に、変化や ればすぐ個別カンファレ ケアプランに反映させ		

自	外	項目	自己評価B棟	外部評価	<b>5</b>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添い、受診の順番取りを することもある。(継続)		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏田町区長はじめ地元住民、慰問ボランティア(千鳥会)の協力支援を受けている。特に地元区長、住民の協力を得て実施している避難訓練は平成20年から毎年行い28年5月実施で8回目となった。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとっている。わずかな体		
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	医療法人「悠隆会」の看護師が24時間体制で待機している。さらにH19年7月から 医療連携体制を実施し、1週間に1度訪問 看護師による訪問看護がなされ健康管理 に役立っているている。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院するときには必ず管理者が付き添い、状態や状況を説明すると共に、「ケアサマリー」を看護師に渡している。退院時にはケースワーカーと打ち合わせ、看護師から文書で報告を受けている。(継続)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	重度化した場合や終末期については、指 針もとに早い段階において医師とともに家 族に説明して話し合いを行っている。状態 が変化したときは家族に連絡するとともに 主治医、方針を共有し最善の支援をする ようにしている。(継続)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	毎年1回、消防署に出向いて救急救命士 を講師とした心肺蘇生、AED実技の訓練 を受講している。職員全員が実践できるよ うにしている。		

自	外	<u>崎県延岡市 クルーフボーム「さくらの柱」(E</u> 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	自己評価	B棟	外部評価	西
2	部	項 目	実	践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わり 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	施している。H20年 月に実施した。災害 確保し定期的にチェ	長、住民の協力を得て実から毎年実施し28年も5時の備品、水や食料をシウしている。平成27年5ス窓の飛散防止対策とを貼った。		
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	泄·入浴の場面ではいる。介護記録等は	基本とし、入室の際や排 プライバシーを確保して 所定の場所に管理して り得たことを口外しない どめている。(継続)		
37			どから希望や思いを だけかなえるように べたいとつぶやいた	つぶやき、表情、体調、な 読み取り、それをできる 努めている。漬け物が食 入居者には、昔買いに よっちみろや」にお連れ んでもらった。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	を鋭敏に読み取り、 の防止をしている。 が見られた場合には	望やその人の精神状態 その希望の実現、不穏 精神状態に変化の兆候 は、通常業務を後回しに 爰(散歩やドライブなど)を いる。(継続)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	入居者の生活習慣? 粧や白髪染めができ	を読み取って毎日のお化 きるように支援している。		
40	(15)	や食事、片付けをしている	ぎりを作ってもらって 殆ど行い入居者の能 るとはいえないのが	こしてしてもらったり、おにこいるが、調理は職員が能力を十分に生かしてい。現状である。梅干しや意な入居者は毎年漬けばれている。		
41			る。具体的には形態 好み、減塩(高血圧	なを提供するようにしてい ((おかゆ、ペースト状)、 症)、など個別的に対応 夏場には特に十分な水 している。		

自己	外	項目	自己評価	B棟	外部評価	西
	部		実	践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人のカに応じた口腔ケ アをしている		アの支援をしている。 じて声掛けや誘導、歯 ている。(継続)		
43	(16)	の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ター方式)を記録把掛けにつなげている ンツ、夜のみ紙パン し、たまに失禁した	世パターンシート』(セン  握して、トイレ誘導声 る。中には昼間は布パ ハツにして自立を支援 場合はなぜ失禁したの 析して失禁を減らすケ		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	噌汁の具材は野菜菜を残す人にはミュたところ、残さず摂 芋類を積極的に摂	るだけ多くするため、味 を多く入れている。野 キサーにかけて提供し 取出来るようになった。 取、ウオッシュレット刺 を取り入れている。		
45	(***)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では一人当たいる。希望があれば している。	り週に3~4日入浴して ばいつでも入れるように		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している		はホットミルクを提供し 、ら世間話等をしたりし		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	分、昼分、夕分を までの過程ステップ	、薬を個人ごとに、朝 セットしてから与薬する 『毎に確認内容、担当 -ェックリストを作り2重 した。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	れ力を発揮してもら ては焼酎やコーヒー	など得意分野でそれぞっている。嗜好品とし 一を楽しんでもらってい は塗り絵を毎日してい		

自	外	「一方では、カークルーク・カース」である。	自己評価 B棟	外部評価	ш
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族	桜を見に愛宕山に皆で行った。2人を除く 入居者のほとんどがタクシーで登り、眼下 に広がる延岡市街地をながめながら、昔 話に花が咲いた。帰りにはファミリーレスト ラン「ジョイフル」で久しぶりの外食をした。		
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	入居者のお金(小遣い)は、施設の事務員が預かっている。必要な時には事務員がその中から支払っている。現在入居者の中にお金を管理できる人はいない。		
51			電話は自分でかけたり、希望があれば職員がダイヤルして話してもらっている。手 紙は自分で書いて友人や家族とやり取り している。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が自宅から花を持ち寄り飾ることによって、季節感を醸し出している。換気には気を配っている。味噌汁やご飯の炊けるにおいがほのかに漂い生活感を感じるようにしている。(継続)		
53		工夫をしている	フロアには現在ソファーを置いていない。 理由は安全確保のためである。ソファーに 座り損ねたりソファーにぶつかりそうにな る入居者がいるからである。フロアでは食 事用テーブルの自分の席に座り話したり、 テレビをみたり、塗り絵をしたり思い思いに 過ごしている。		
54		て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込んでいる。またぬいぐるみ、かべ		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	見当識障害の障害がある入居者には、トイレや自室に表示や目印をつけることで 混乱なく生活している。(継続)		